



ESD（持続可能な開発のための教育）とSDGs（持続可能な開発目標）の視点を取り入れた地理授業の開発

教育学部 社会領域

准教授 中村 光則

研究シーズの概要

ESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)をご存じでしょうか。たぶんSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は聞いたことがあってもESDは知らないという方が多いかもしれませんが、ESDは2002年に日本政府が提唱した考え方で、同年の第57回国連総会で採択され国際的に取り組まれてきました。その後、2015年の国連サミットで国際社会全体の目標として採択されたのがSDGsで、ESDは17の目標のうち目標4の中の1つのターゲットとして位置付けられました。さらに、2019年の第74回国連総会ではESDはターゲットの1つとして位置付けられているだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが確認されています。（文部科学省webページによる。）

また、日本においては全国の小・中・高等学校における教育課程の基準である学習指導要領にESDの理念が取り入れられ、現行の学習指導要領においては「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられています。

これらのことを踏まえ、身近な地域から地球規模の課題まで様々なスケールで持続可能な社会づくりについて考察できる地理の授業開発を研究しています。例えば、図1のようにESDの内容群に「危機管理・危険回避に関すること」を新たに設定し、図2のような防犯環境設計（CPTED：セプテッド）の理論を基に持続可能なまちづくりを考えさせる防犯地理の授業開発を進めています。他にも同じ内容群として、自然災害による被害を最小限に抑える持続可能なまちづくりを考えさせる防災・減災地理の授業開発も進めています。未来社会を担う子供たちが、こうした授業を通して「持続可能な社会の創り手」になっていくことを願いながら、様々な授業開発に取り組んでいます。

内容群	キーワード例
I 人間の尊厳に関すること	人権、貧困、健康、ジェンダー、平和、福祉の向上など
II 将来世代への責任に関すること	世代間の公平、資源の保全、自然環境・地球環境など
III 人と自然との共存に関すること	自然環境・地球環境、生態系、気候変動、資源の有限性など（生態的持続可能性）
IV 経済的社会的公正に関すること	貧困、経済格差（南北問題等を含む）、フェアトレード、企業責任、市場経済、開発など（社会的持続可能性）
V 文化の多様性・尊重に関すること	異文化衝突、多文化理解、社会的寛容、人権など（精神的・文化的持続可能性）
VI 危機管理・危険回避に関すること（※筆者が追加）	防災・減災（自然災害、火災、人災、事故）、防犯（犯罪、交通事故、テロ）、財産管理（生命・生活的持続可能性）

図1 ESDの内容群とキーワード例（国研2010を基に作成）

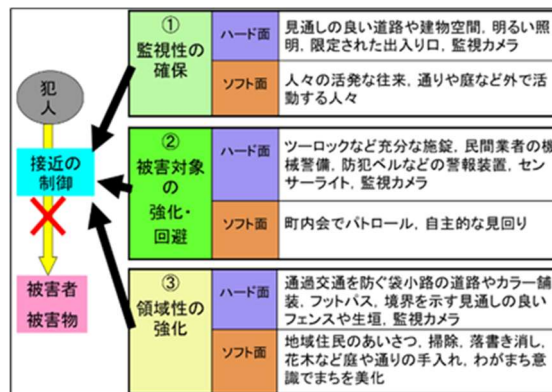


図2 防犯環境設計（警視庁webページを基に作成）

【利用が見込まれる分野】ESD、SDGs、地理教育、社会科教育、国際バカロレア、持続可能な地域づくり・まちづくり、CPTED(防犯環境設計)、防犯地理、防災・減災地理

研究者プロフィール

中村 光則

／ ナカムラ ミツノリ



メールアドレス nakamura.mitsunori@kagawa-u.ac.jp
 所属学部等 教育学部 社会領域
 職位 准教授
 学位 博士（教育学）
 研究キーワード ESD、SDGs、国際バカロレア、地理教育、社会科教育、防災・減災地理、防犯地理

本研究に関するお問い合わせは、香川大学産学連携・知的財産センターまで

問い合わせ番号:ED-26-002

直通電話番号:087-832-1672

メールアドレス:ccip-c@kagawa-u.ac.jp